

カメくんと歯

著者 松山愛実



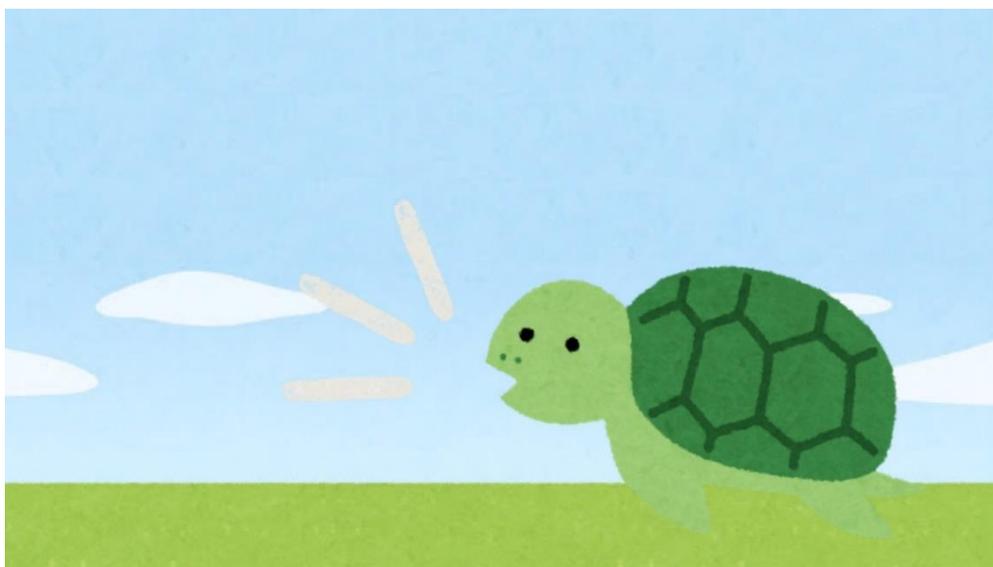
あるところに、仲良しの動物たちがいました。

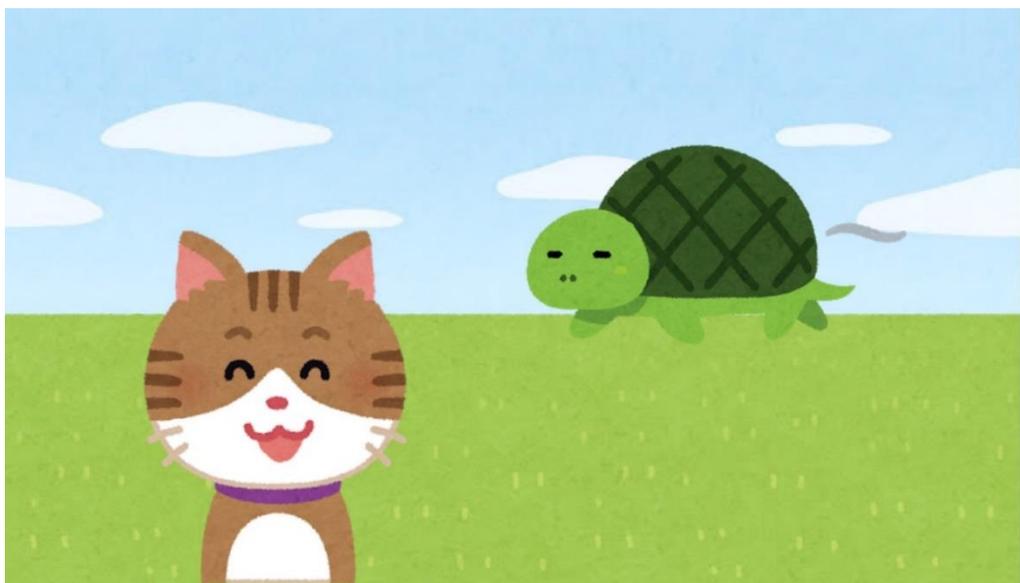
今日も、いつもの広場で集まって、遊ぶ予定です。

カメくん「おいしい！みんなさー！」

ネコちゃん「あつ、カメ君ださー」

皆「ウサギちゃんがすごいんだよさー」





皆がそう言って、話題にしていたのは
ウサギちゃんの歯のことでした。

ウサギちゃん「今日の朝抜けたのよ」

そう言って、抜けた歯をカメくん
よく見せてくれるウサギちゃん。

カメくん「わあ!!」

これにはカメくんもびっくりです。



カメくん「すごいねーウサギちゃん！」

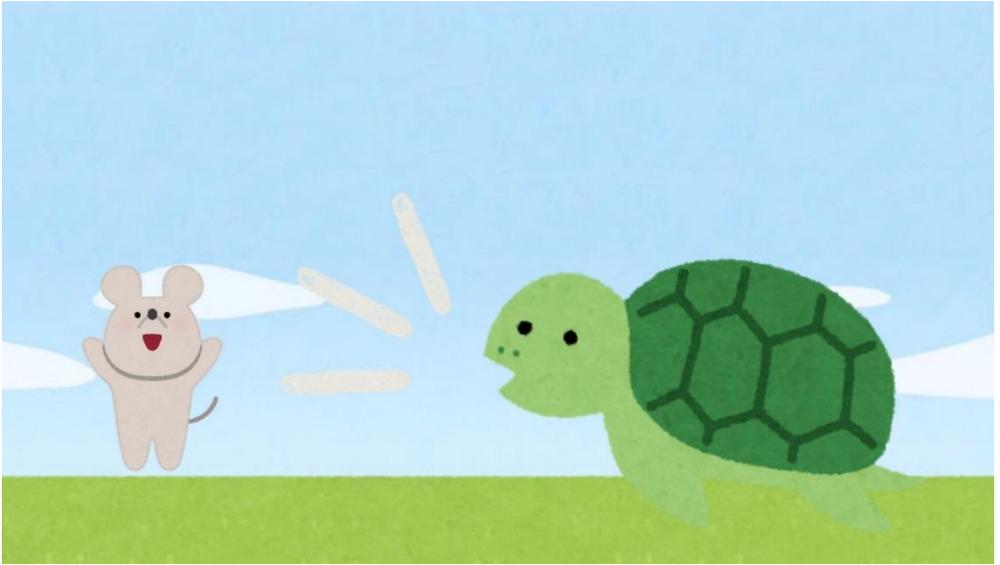
カメくん「僕には歯が無いんだ。ほら。」

そう言って、口を開けるカメくん。

皆「わあ！」

今度は、皆がびっくりしました。

ネズミくん「カメくん、歯が無いなんてすごいね！」



ウサギちゃん「あのね、これはパパから聞いた話なんだけど……」

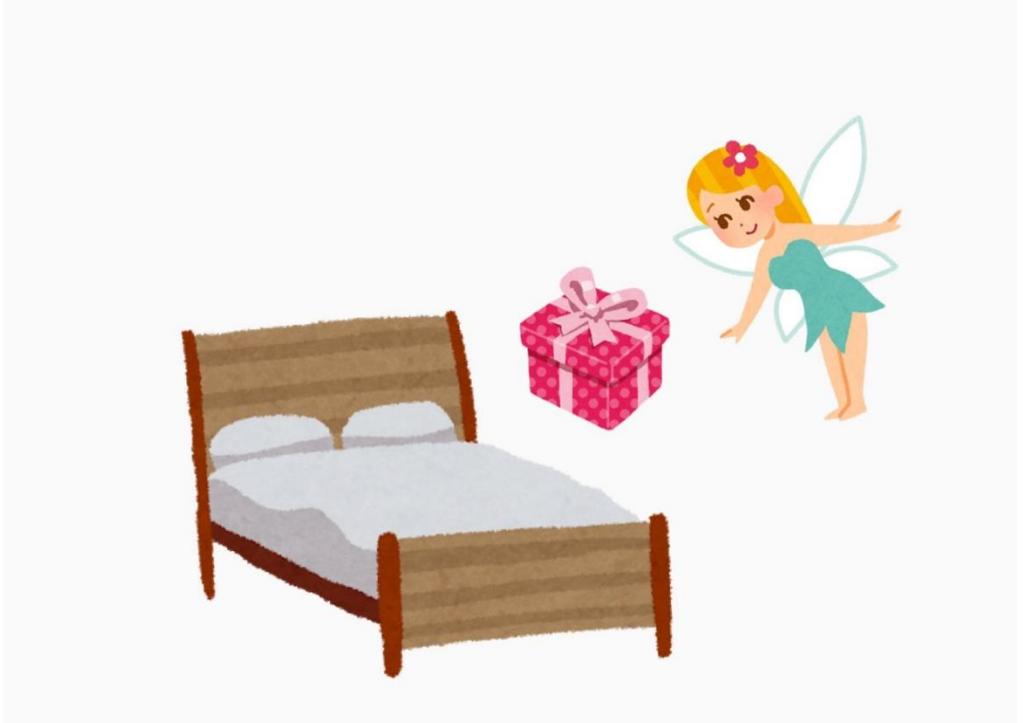
ウサギちゃんは歯を枕の下に置いて寝ると

歯の代わりに、妖精がサンタのようにプレゼントを置いて行ってくれるのだという話をしました。

ウサギちゃん「だから私ね、この歯を枕の下に置いて寝て妖精さんにプレゼントをもらうの！」

ネコちゃん「わあ、いいね〜」

ネズミくん「プレゼント何もらったか教えてね！」



次の日

ウサギちゃん「皆々」

皆「あ、ウサギちゃん!」

今日もいつもの広場に皆が集まりました。

カメくん「プレゼント何もらったの?」



ウサギちゃん「これだよ」

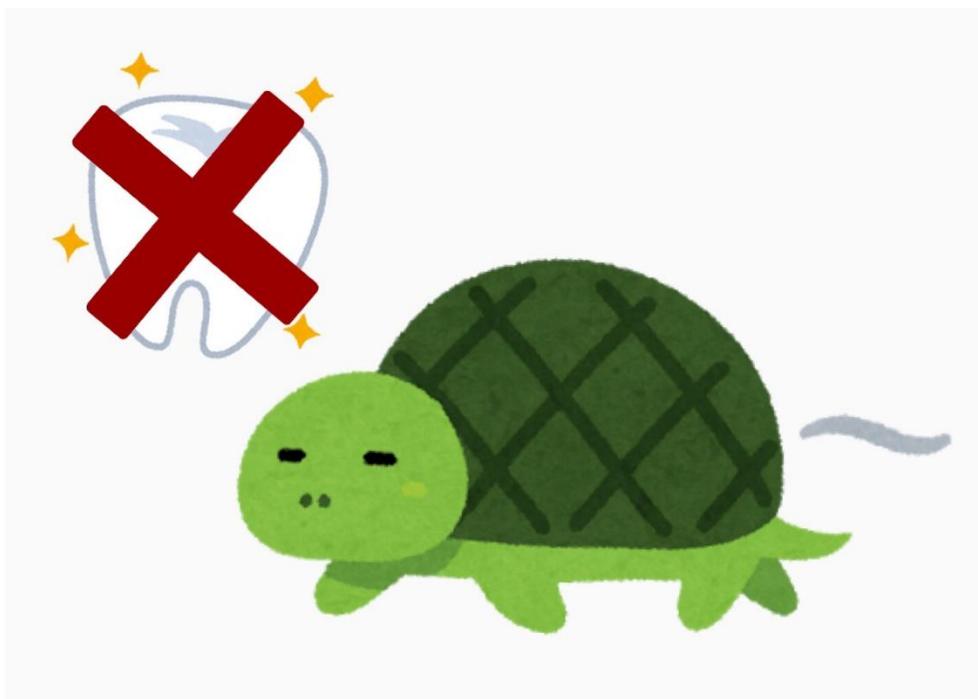
ウサギちゃんが嬉しそうに差し出したのは
歯の形が彫られたコインでした。



皆は次に自分の歯が抜けたら
どんなプレゼントがもらえるのだろうと
楽しそうに話し合っています。

しかし、カメくんには歯がありません。

カメくんはうらやましく思いました。

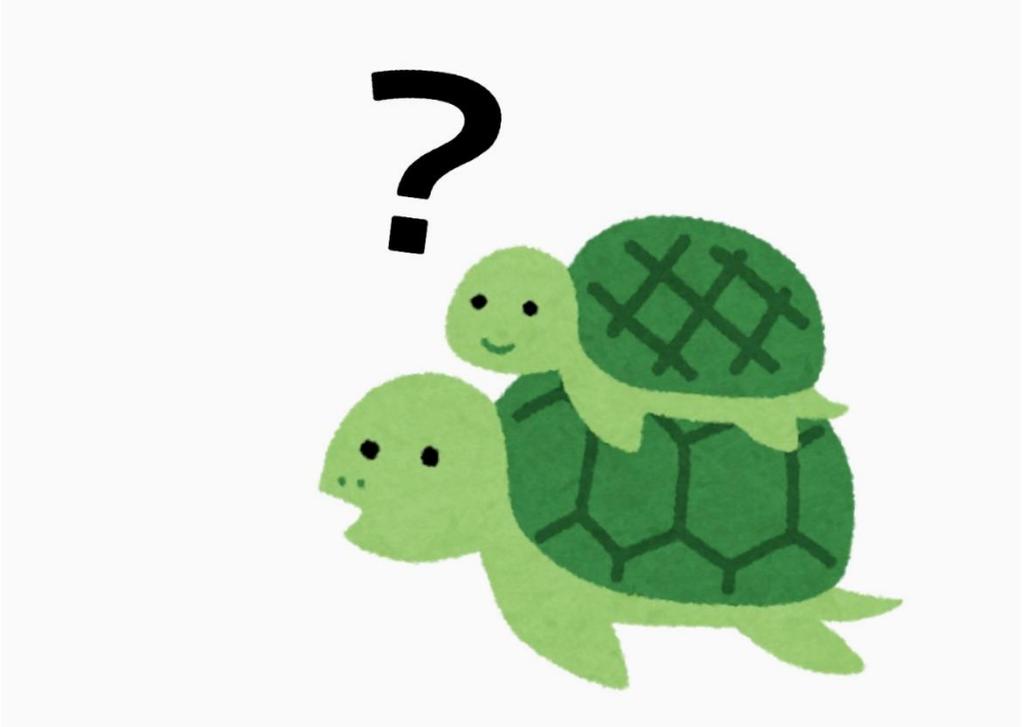


カメくんは家に帰ってお母さんに相談します。

カメくん「お母さんどうして僕には歯が無いの？」

お母さん「そりゃ、カメだもの！歯なんていらないわ！」

カメくんとお母さんの話は噛み合わないまま終わりました。

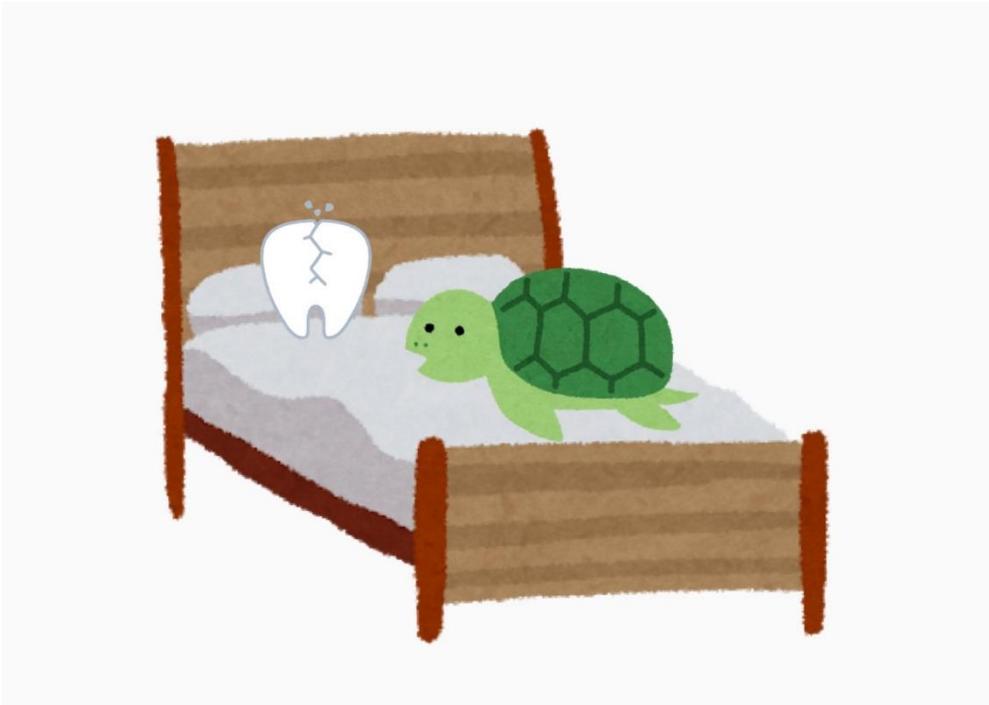


納得いかないカメくんはその日、

自分で偽物の歯を作って枕の下に置いて寝ることにしました。

カメくん「僕だって皆と、もらったプレゼントの話がしたい！」

カメくんは一生懸命、歯を作りました。

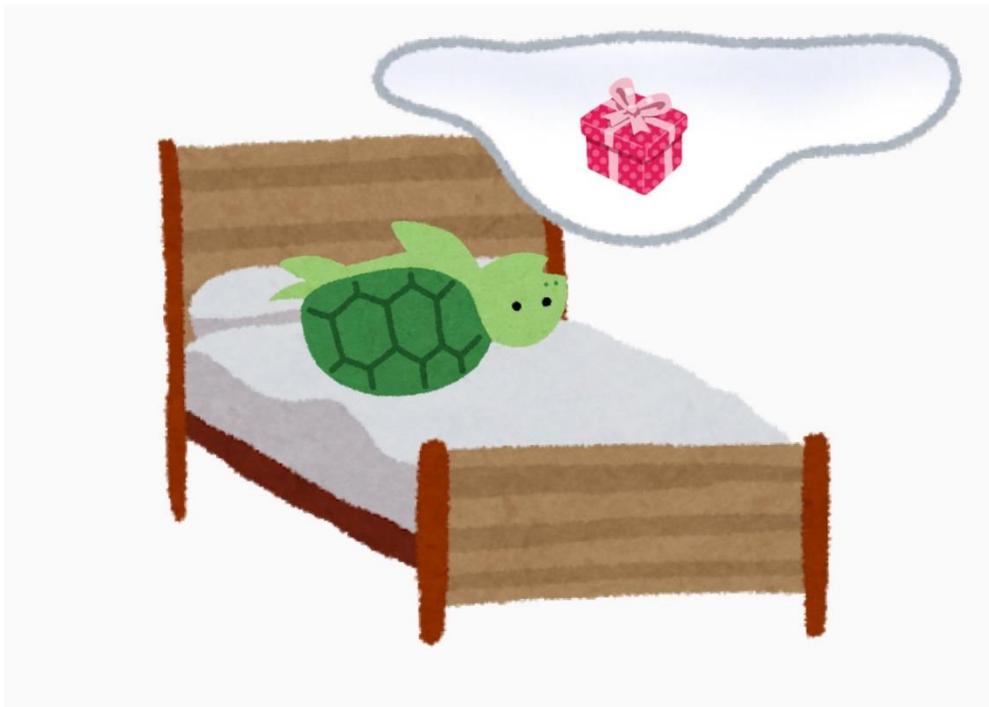


その日の夜

カメくんは、しっかりと枕の下に作った菌を置いて、横になりました。

カメくん「僕にもプレゼントが届きますように……」

こうしてカメくんは眠りにつきました。



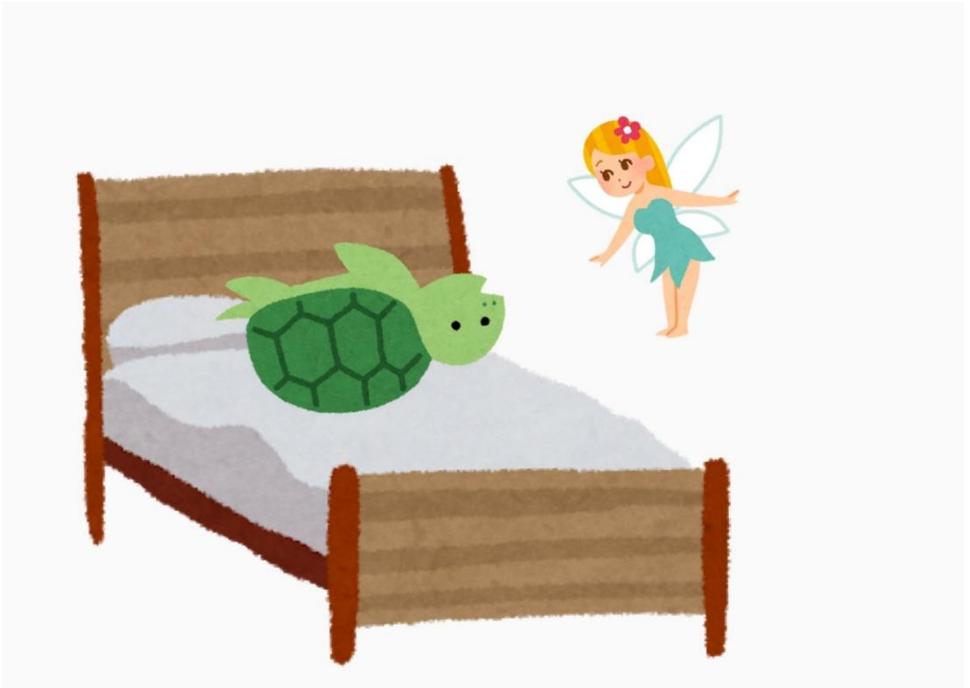
リンリン……リンリンリン……

小さな鈴の音が聞こえてきます。

？「起きなさい……」

声がしてカメくんは目を覚ましました。

すると、そこにはなんと妖精さんがいたのです。



妖精さん「カメくん！どうして偽物の菌なんて作るの！」

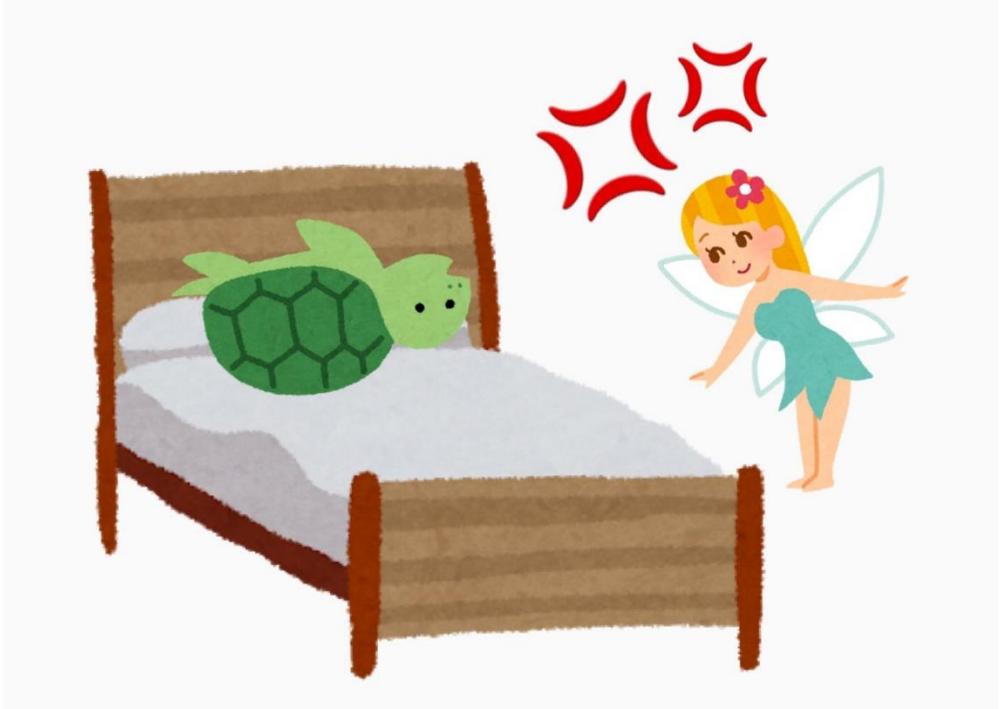
カメくん「え？」

妖精さん「私は菌の妖精よ！」

偽物か、本物かなんてすぐにわかるわ！」

カメくんは妖精さんに怒られてしまいました。

カメくん「ごめんなさい。僕も皆と同じように話がしたくて……」



妖精さん「カメくんには皆と違って丈夫な顎があるのよ。

だから、歯が無くて大丈夫なの。」

先ほどまでとは違う優しい口調で妖精さんは教えてくれました。

妖精さん「あのコインはね、歯が無くなってしまったことが寂しくないようにするプレゼントなの。」

妖精さん「一つのを大切にしてね。」

そう言って妖精さんは去って行きました。

カメくん「僕には、丈夫な顎があるのか……」

カメくんはもう一度眠りにつきました。



次の日

カメくん「行ってきます〜す！」

カメくんは笑顔で出かけます。

今日も、いつもの広場で皆と集まって、遊ぶ予定です。

きっと、今日の話題はカメくんと歯についてでしょう。



『カメくんと歯』

著者 松山愛実

イラスト「いらすとや」編集 築山楓

編集 槇野史織

二〇二〇年（令和二年） 七月二十三日発行

発行所 梅花

Web 出版

大阪府茨木市宿久庄二・一九・五

カメくんと歯

